



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 山本 良一
 お問合せ先 財務戦略統括部 IR推進部
 TEL 03-6895-0178

2018年10月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	10月度	9~10月度 累計	10月度	9~10月度 累計
百貨店事業	3.4	0.7	3.3	0.5
パルコ事業	▲2.9	▲2.3	0.5	▲0.2
不動産事業	19.8	21.0	17.5	19.8
クレジット金融事業	6.8	4.9	6.4	5.0
その他	▲10.2	▲5.1	▲7.3	▲3.6
連結合計	▲0.7	▲1.2	1.5	▲0.2

※1 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用いたしております。

※2 総額売上高

IFRS売上収益のうち百貨店事業と「その他(大丸興業)」の消化仕入取引を総額に、パルコ事業の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しております(なおパルコ事業では2017年度から日本基準の売上高を純額ベースで算出する方法に変更しております)。

※3 PARCO_ya(上野)は2017年11月4日に開店いたしました。

※4 本年3月から百貨店事業の大丸神戸店周辺店舗のテナントを順次賃貸借契約に変更し、売上を不動産事業に移管しております。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- ・前年に比べて日曜日が▲1日であったものの、訪日外国人客を含め化粧品、ラグジュアリーブランドが好調を持続するとともに、秋物衣料が堅調に動き、菓子や惣菜が伸びた。
- ・店舗別では、東京店が26ヶ月連続で対前年プラスとなるなど、直営14店舗中10店舗が前年実績を上回った。
- ・大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、中旬以降、伸びが回復し、全店が対前年15.6%増(客数同30.6%増、客単価同▲11.5%減)、関西4店舗の免税売上高は、同18.7%増、札幌店は、同5.0%増であった。
- ・なお、大丸松坂屋百貨店の11月度の売上は、14日までの累計(対前年休日▲1日減)で、全店が、対前年▲0%減(関西4店同▲1%減、札幌店同▲4%減)。また、免税売上高は、全店で同23%増(関西4店同24%増、札幌店同23%増)で推移している。

2) パルコ事業

- ・ショッピングセンターパルコでの化粧品や食物販へアイテムを変更する改装が奏功し売上を底支えたことに加えてエンタテインメント事業の劇場部門が好調であったものの、パルコスペースシステムズにおける前年の大型内装電気工事受注の反動影響などをカバーするにはおよばなかった。

3) 不動産事業・クレジット金融事業・その他

- ・不動産事業は、上野フロンティアタワーや大丸神戸店周辺店舗からの移管分の家賃収入が加わった。
- ・クレジット金融事業のJFRカードは、加盟店手数料、割賦販売手数料などが増加した。
- ・その他では、人材派遣業のディンプルが好調であった。

お問合せ先 J.フロント リテイリング株式会社 IR推進部・グループ広報推進部

TEL 03-6895-0178
 FAX 03-6674-7565

2018年10月度 百貨店事業 営業報告(日本基準)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	10月度		9～10月度 累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心斎橋店	6.3	6.4	▲1.1	3.0
大丸 梅田店	6.1	0.8	2.0	▲2.8
大丸 東京店	0.5	3.5	2.5	3.1
大丸 京都店	▲0.3	4.6	▲2.4	0.5
大丸 山科店	▲1.0	▲1.8	▲4.6	▲6.1
大丸 神戸店 (※)	9.0	10.6	4.5	4.5
大丸 須磨店	▲0.1	▲3.4	▲4.4	▲5.8
大丸 芦屋店	▲2.0	▲0.0	▲3.4	▲2.6
大丸 札幌店	3.2	2.2	▲2.1	▲3.0
松坂屋 名古屋店	3.6	7.3	2.0	8.9
松坂屋 上野店	13.8	33.8	11.0	30.5
松坂屋 静岡店	3.7	8.0	4.4	8.2
松坂屋 高槻店	4.5	▲0.1	▲1.7	▲3.9
松坂屋 豊田店	3.6	0.5	0.1	0.2
大丸松坂屋百貨店合計	4.4	4.6	1.3	2.1
博多大丸	2.9	6.6	3.0	4.9
下関大丸	▲2.8	▲7.3	▲1.4	▲3.0
高知大丸	▲0.8	8.2	▲3.2	4.4
百貨店事業合計	4.0	4.4	1.3	2.2

※1 本年3月から大丸神戸店周辺店舗のテナントを順次賃貸借契約に変更し、売上を不動産事業に移管しているため、神戸店の売上高は「賃貸契約へ移管したテナントの前年売上実績を除いた実質の対前年増減率」で表示しています。参考数値として、前年に不動産事業への移管分を含めた10月度の大丸神戸店の売上は、対前年1.7%増。同じく9～10月度累計では、同▲2.8%減。

※2 合計の前年は大丸神戸店周辺店舗の不動産事業への移管分を除く既存店ベース。前年に大丸神戸店周辺店舗の不動産事業への移管分を含めた10月度の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年3.5%増、百貨店事業合計 同3.3%増。同じく9～10月度累計は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年0.4%増、百貨店事業合計 同0.5%増。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	10月度	9～10月度 累計
紳士服・洋品	▲3.5	▲2.1
婦人服・洋品	1.5	▲1.7
子供服・洋品	▲7.3	▲9.2
その他の衣料品	1.1	▲3.8
衣料品計	0.1	▲2.2
身回品	1.5	▲3.6
化粧品	23.4	13.8
美術・宝飾・貴金属	▲0.9	▲2.6
その他雑貨	13.3	12.2
雑貨計	13.4	7.5
家具	▲6.8	▲9.2
家電	▲20.4	▲22.1
その他の家庭用品	▲2.0	▲6.1
家庭用品計	▲3.4	▲7.0
生鮮	3.0	1.3
菓子	7.3	4.1
惣菜	2.2	2.2
その他食料品	4.5	0.8
食料品計	4.4	2.4
食堂・喫茶	0.2	▲2.6
サービス	19.0	7.8
その他	6.7	6.1
合計	3.5	0.4

※ 合計の前年は、大丸神戸店周辺店舗の不動産事業への移管分を含めています。

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが好調を持続するとともに秋物衣料が動いた。紳士服・洋品は、ジャケット、スーツが好調であったものの、コートの動きが鈍かった。身回品は、ハンドバッグが好調に動いた。雑貨は、高級時計が好調を持続するとともに、国内客、訪日外国人客ともに化粧品が伸びた。家庭用品は、高級家具、食器調理用品の苦戦と大型催事の縮小が影響した。食品は、東京店、京都店で洋菓子が好調であったほか、神戸店などの大型催事が寄与した。